
シンポジウム 3

維新企画 3 : 腹腔鏡手術・ロボット手術の新しい手術療法

座 長 雑 賀 隆 史 (愛媛大学大学院医学系研究科 器官・形態領域 泌尿器科学)
日 向 信 之 (広島大学腎泌尿器科学)

司会のことば

本邦泌尿器科において、ロボット手術は da Vinci S による前立腺根治術から始まり、この 15 年間で広く普及してきた。この間に膀胱全摘除、腎部分切除、根治的腎摘除、腎尿管全摘除、副腎摘除、腎盂形成や仙骨腫固定などに適応は広がり、新しい platform も参入している。本シンポジウムでは維新企画としてこれらの新しい組み合わせや術式について 4 名のエキスパートから最新の取り組みを紹介いただいた。

まず新 platform の評価と可能性を明らかにするために、愛媛大学の福本先生から新規 platform として hinotori をもちいた仙骨腫固定術の経験をもとに多角的

視点から評価と今後の可能性への提言をいただいた。さらに、鳥取大学の森實先生からは新しい platform として Hugo RAS をもちいた腎尿管全摘除の経験から新 platform の評価とセッティングのポイントを解説いただいた。

新術式への展開として、岡山大学の荒木先生からはロボットによる自家腎移植の経験をもとに、本邦における腎移植レシピエント手術への展開を解説いただいた。また、広島大学の北野先生からはロボット支援被膜下前立腺腺腫核出術の経験から本邦における前立腺肥大症手術への展開を報告いただいた。

これらの講演とそれに続く討論により、今後のロボット手術の新展開が明らかにされた。